

## ワイン品質が優れ、栽培が容易な 赤ワイン用ブドウ新品種「ビジュノワール」

現在、我が国で栽培されている主な赤ワイン用の醸造専用品種は欧州種の「メルロ」と「カベルネ・ソーヴィニヨン」などですが、我が国の気象条件下では、着色不良や裂果といった問題を生じることが少なくありません。山梨県では、国からの委託で醸造用ブドウの育種事業(指定試験)を実施していますが、裂果が無く、栽培が容易な赤ワイン用ブドウ新品種「ビジュノワール」を育成しましたので、その概要を紹介します。

### 技術の概要

1. 山梨県果樹試験場において、1986年に、栽培が容易な「ブドウ山梨27号」(「甲州三尺」×「メルロ」)にワイン品質が優れる「マルベック」を交雑して得られた実生から選抜し、2006年10月に「ビジュノワール」として農林登録されました。
2. 樹勢は中程度で、花振るいが少なく、着粒はやや密です。果房重は290g、果粒重は2.3gで裂果は認められません。育成地では、「メルロ」および「カベルネ・ソーヴィニヨン」と比較して糖度は22.4%と高く、酸度は0.55g/100mlで低いです。育成地における熟期は9月上旬で、「メルロ」より1週間、「カベルネ・ソーヴィニヨン」より1ヶ月以上早く、秋雨や台風の影響を受けにくいです。
3. 醸造したワインは、「メルロ」や「カベルネ・ソーヴィニヨン」と比較して酸が少なく、まろやかで、タンニンが多いです。また、赤色が濃く、ボディもあることから品質が優れています。



写真 「ビジュノワール」の結実状況

### 活用面での留意点

1. 既存品種では着色不良が問題になっている九州などの温暖地域においても、十分に着色します。また、北海道などの寒冷地においても、耐寒性が確認されています。
2. タンニンが多く酒色も濃いことから、味や色の薄いワインへのブレンド原料としても有望です。
3. 苗木の市販は2007年秋以降になります。その他、詳細については、山梨県果樹試験場育種部ブドウ育種科(電話:0553-22-1921)にお問い合わせください。